

理事長の頭の中

Chairman of Chitosekai Group
by Hiromasa Hidari



VOL.164. 2020. 3月号

「ものの見方について」

スイッチON!! 介護業界にも影響が出てきております。。感染症対策は継続していただき、今回の新型コロナウイルスの対策のためのマニュアルをブラッシュアップ更新して、今後の対策とサービスの向上につなげていきます! どうぞ、ご協力意識向上のほどよろしくお願い致します!!! 乗り越えていきましょう!

さて、面白い本を読み出しました。なかなか簡素でシンプルですが、響きます。共有します。いきなりですが、コペルニクスの地動説の観点での説法です。

コペルニクスがそれを唱えるまで、昔の人はみんな、太陽や星が地球のまわりを回っていると、目で見たままに信じていました。

これは、一つは、キリスト教の考えで、地球が宇宙の中心だと信じていたせいでもあります。

しかし、もう一歩突きいって考えると、

人間というものが、いつでも自分を中心として、ものを見たり考えたりするという性質を持っているためなんだと角度を変えて伝えてくれています。

ところが、コペルニクスは、それではどうしても説明がつかない天文学上の事実に出会って、色々頭を悩ました末、思い切って、地球の方が太陽のまわりを回っているも考えてみました。

そう考えてみると、今まで説明のつかなかった、いろいろのことが、きれいな法則で説明されるようになりました。今では、小学校でさえ、簡単な地動説の説明をし、子どもたちも疑いなく理解しています。

しかし、この説が唱え始められた当時は、危険思想と考えられ、この学説に味方する学者は牢屋に入れられたり、その書物を焼かれたり、さんざんな迫害を受けました。

人間が自分を中心としてもものを見たり、考えたりしたがる性質というものは、これほどまでに根深く、頑固なものなのです。

コペルニクスのように、自分たちの地球が広い宇宙の中の天体のひとつとして、その中を動いていると考えるか、

それとも、自分たちの地球が宇宙の中心にどっかりと座り込んでいると考えるか、

この二つの考え方というものは、実は、天文学ばかりの事ではないです。

世の中とか、人生とかを考えるとときにも、やっぱり、ついてまわることになります。

子どものうちは、地動説ではなく、天動説のような考え方をしています。

それは、見聞や環境が狭い中での、自分を中心としてまとめあげられているからです。

それが大人になると、多かれ少なかれ、地動説のような考え方になってきます。

広い世間もいつものを先にして、その上でいろいろな物事や、人を理解してゆくからです。

しかし、大人になるとこういう考え方をするというのは、ごく大体のことに過ぎません。

人間がとかく自分を中心として、物事を考えたり、判断するという性質は、

大人の間にもまだまだ根深く残っています。

なおさら損得に関わることになると、自分を離れて正しく判断してゆくということは、非常に難しいことで、
こういうことについてすら、コペルニクス風の考え方の出来る人は、非常に偉い人といっていいでしょう。

大概の人が、手前勝手な考え方に陥って、ものの真相がわからなくなり、自分の都合の良いことだけを見て
ゆこうとします。

しかし、自分たちの地球が宇宙の中心だという考えにかじりついていた間、人類には宇宙の本当のことがわ
からなかったと同様に、

自分ばかりを中心にして、物事を判断してゆくと、世の中の本当のことも、ついに知ることが出来ないで一生
を終えてしまう。

大きな真理は、そういう人の眼には、決して映らないと伝えてくれています。

もちろん、日常僕たちは、太陽が昇るとか、沈むとか言っているし、

そして、日常のことには、それで一向に差支えないし、意識にも留めなくなりました。

しかし、宇宙の大きな真理を知るためには、その考え方を捨てなければならない。

それと同じようなことが、世の中のことについてもあるのだから。

まさに、0から1を生む人、当たり前を疑いイノベーションを起こす人たちには、

多くの壁や試練、困難が立ち塞がり、既成概念に囚われ変化を拒む人に迫害を受けることになると思う。

時間の経過と歴史で結果は証明されることになると思うが、どうか応援者への妨害や足の引っ張りや、
その人の人生を保証もできないのに無責任に、自らの考えを中心に行っている天動説的人たちには、
上記のコペルニクス的考えに当てはめて、素直な心で一読してもらい素晴らしい本として紹介したい。



フェイスブック始めました。
お友達申請お待ちしております。

社会福祉法人 千歳会
理事長 左 敬真

